

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	自然環境保全活動促進事業（水辺の楽校推進事業）
事業実施者	府中水辺の楽校運営協議会
事業目的	身近な自然である多摩川の水辺環境を知る機会を提供し、河川への理解をより深めるために、小学生と保護者を対象とした自然とふれあう機会を提供する。
事業内容	多摩川など水辺を活用した自然環境学習や体験学習を実施する事業。
事業目標	参加児童数1,000人（年間）

1 評価結論	A:協働事業として適切で優れていると評価できる。
	多様な主体の関わりや他市との連携等、協働事業として評価できる事業である。
2 事業について	ノウハウも確立しており、事業そのものが完成されている。予算規模についても助成金等を活用するなど工夫も見え、金額等も妥当である。
3 協働の広がりの可能性	課題として、運営協議会の委員の高齢化があげられているが、事務局は若い世代が入ってきている認識があるため、運営協議会と共有し、事業に参加した保護者を巻き込むなどで、さらなる広がりが期待できる。
4 意見交換会を踏まえて	協働事業としても、次の世代に託すにふさわしい事業である。
5 まとめ	運営協議会に様々な主体が関わっているため、スムーズな運営ができており、成熟している事業である。また、小学校の総合学習への反映や、他市との連携など、活性化している事業である。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	第8回WaiWaiフェスティバル
事業実施者	府中市、第8回WaiWaiフェスティバル実行委員会
事業目的	市民に対して障害福祉に関する知識の普及および理解の促進を図る。また、障害者、家族、支援者等の交流・協働の機会を作ることにより、地域における障害者福祉活動の促進に寄与する。
事業内容	障害者(児)福祉啓発事業として、障害や障害のある方に関する講演会やコンサート、作品展などを行う。
事業目標	事業の宣伝方法を工夫し、広く市民に対し、障害者の現状とメッセージを伝え、障害者福祉に対する協力と理解の促進を図る。

1 評価結論	C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。
	役割分担の整理等が不十分であるため、それぞれの特性等を再確認し、市民により一層協働の概念を理解いただくことで、基礎が固まりさらなる発展が期待できる。
2 事業について	課題として、一般への広報があるが、次年度に向けて検討を進めているため、課題解決に引き続き取り組んでいただきたい。また、ただのイベントとして終わらないよう、市民全体の取組としてPR方法を検討し、継続いただきたい。
3 協働の広がりの可能性	市は積極的に取り組んでいるので、中間支援組織を一層活用し、市民全体の取組としていくことで、よりより協働事業となる可能性がある。
4 意見交換会を踏まえて	責任の所在の曖昧さを把握しており、次年度に向けて細かな打合せを行うことで解決していただきたい。
5 まとめ	反省を重ねながら実施している。発想力は市民、調整や事務は職員と役割分担が明確であるが、責任の所在等さらなる役割分担の整理を行う必要がある。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	府中市民桜まつり
事業実施者	府中市民桜まつり実行委員会/府中市市民活動支援課
事業目的	市民が自然に親しみ、市民相互の交流と親睦の推進
事業内容	コミュニティ団体から選出された実行委員と市が協働しながら、自らまつりを作り上げることで市民協働を推し進め、府中市への関心、愛着を深めることを目的に開催するもの。
事業目標	市民が自然に親しみ、自然を愛し、だれもが楽しめ、心ふれあう健康的な桜まつりを実施する

1 評価結論	特性を生かしながら役割分担をしており、事業としても協働の関わり方としても評価できる事業である。現状に満足せず、組織の活性化や新たな事業展開など、絶えずよりよい事業に向けて取り組んでいただきたい。
2 事業について	天候に左右される催しであるが、市をあげての最大の事業であり、完成度の高い事業である。
3 協働の広がりの可能性	新たな人を実行委員会に加えることで、組織が活性化し、協働の広がりやさらなる事業の発展につながることを期待できる。
4 意見交換会を踏まえて	コミュニティ協議会と職員との連携が強く、完成度の高い事業である。完成度が高い事業であるからこそ、大きな変化が難しい。より一層の事業の発展のために、改善に向けた振り返りの作業が必要である。
5 まとめ	連携力がある事業である。企画・運営は市民、広報は市というような分担でなく、全体の運営から強みを生かして分担をしていくということが評価できる。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	府中市民芸術文化祭
事業実施者	市、府中市芸術文化協会（以下、協会）
事業目的	芸術文化活動を自主的に展開している市民の、日頃の成果を発表する機会をつくり、文化活動を育成・奨励すること。
事業内容	市内各施設において催し物を実施する。各事業については、団体関係者による出演や出品のほか、可能な限り一般市民の参加を呼びかけ、広く事業に参加できる方法をとっている。
事業目標	市民相互の文化交流や、これまで芸術文化に親しみのなかった市民が芸術文化に親しむことを促進し、府中市がこれまで培ってきた伝統や文化を次世代へ継承していくことを目標とする。

1 評価結論	B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。
	事業の目的や課題が共有されており、役割分担も明確で、協働事業として評価できる事業である。
2 事業について	市内の多様な会場で事業を実施しており、効果的である。今後は事業内容の幅を広げ、多世代の市民が参加できるよう工夫をすれば、より良い事業となる可能性がある。
3 協働の広がりの可能性	市民と市で十分なコミュニケーションを図るとともに、若い世代の参加者を増やすことができるよう、市内の学校等と連携することで、さらなる協働の広がりが期待できる。
4 意見交換会を踏まえて	事業の実施に当たっては、協働相手や参加者の意見を拾い上げ、十分なコミュニケーションを図りながら実施いただきたい。
5 まとめ	共通の認識を持ち、明確な役割分担の下で事業を実施している。関係機関との連携を深めることで、さらに効果的な協働事業へと発展することが期待できる。

- 【評価の結論】 A:協働事業として適切で優れていると評価できる。
- B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。
- C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。
- D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
- E:協働事業としては不十分であった。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	地域ごみ対策推進事業
事業実施者	地域ごみ対策推進員
事業目的	文化センター圏域ごとに自治会から推進員を選出してもらうことで、地域でごみ減量・3Rの推進と分別徹底を進めるための市と市民のパイプ役となってもらい、地域におけるごみ減量のリーダーとして活躍してもらう。
事業内容	推進員と協力し、ごみ減量・3R、分別を推進する。 推進員相互の交流と連携を強化するため、文化センター圏域ごみ対策推進員協議会、正副会長会を開催し、ごみ減量のためのキャンペーン、ごみ処理施設の見学等の活動を行う。
事業目標	推進員が中心となって、各地域でのごみ減量・3Rの推進と分別の徹底を進め、地域環境の美化と衛生保持を図る。

1 評価結論	B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。
	協働相手の人数が多い中、より良い関係性を構築できるよう、工夫をしながらコミュニケーションを取っており、協働事業として評価できる事業である。
2 事業について	協働でなければ、実施できない事業である。市民に対し、どのような効果があったかを把握できるよう、事業を起承転結で実施することで、より良い事業となることが期待できる。
3 協働の広がり の可能性	圏域ごとの意識の差を解消するため、全推進員を対象とした研修会の開催を検討していることから、今後さらなる協働の効果が期待できる。
4 意見交換会を 踏まえて	今後は若い世代の参加者を増やし、継続して取り組んでいけるよう工夫いただきたい。
5 まとめ	引き続き地域との対話を心がけ、圏域ごとの意識の差の解消や、事業継続のためのアプローチ方法を検討することで、さらに効果的な協働事業となると評価できる。

- 【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。
- B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。
- C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。
- D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
- E:協働事業としては不十分であった。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	農業まつり
事業実施者	府中市農業まつり実行委員会・市
事業目的	都市農業の育成
事業内容	農業まつりの運営
事業目標	市民の都市農業への理解の促進

1 評価結論	C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。
	コミュニケーションや役割分担が不十分であるため、丁寧な協議を重ねることで、相互の特性を生かしたより良い協働事業となることが期待できる。
2 事業について	多様な企画が用意されており、農業の初心者でも参加しやすい事業である。今後は、幅広い市民が参加できるよう、市民ニーズを把握しながら事業内容を見直すことで、より良い事業となることが期待できる。
3 協働の広がりの可能性	農業に関心のある市民は多いことから、若い世代が参加できるよう工夫する必要がある。十分な協議を重ねることで、相互のノウハウをより一層生かし、前例に囚われない新しい流れを取り入れていく必要がある。
4 意見交換会を踏まえて	協働相手や参加者の意見を拾い上げ、十分なコミュニケーションを図りながら協働の効果を高めることができるよう、事業の進め方を工夫いただきたい。
5 まとめ	適切や役割分担の下、丁寧に協議を重ねていくことで、さらなる事業の発展や協働の広がりが期待できる事業である。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。